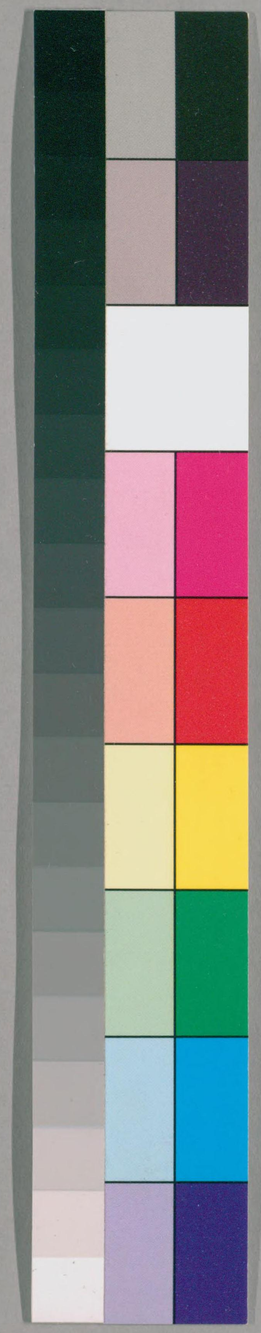
丹鶴叢書

風葉和歌集自十一至十五

117
105
2

東京圖書館

和書門 類 別 函 三 架 二 號 一ノ五 冊



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京國立博物館圖書

風雅集秋の歌 第十一

戀一

女ともしめくゝりそめる

かしら木の檜大納言 小弁上

思ふとも夫にもとをきものそとて袖

小蝶
百番哥合九番

ことなるの事白

なのつねのことのはをやいひもんおのふことを

思いしる涙

いのたゝかる涙のつゆもらぬ袖

さをのるへの天 あ一未

故楸原芳楚納本

楸源家蔵

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

からてもおそろしはなそもちゐ
女ここそぬる夏しやとゐ
こころさわろしはよめる
ぬ
のけこそぬ人をこまにはとしく
かさわそとらそぬ秋そもみそれ
一条女このことよこころ
風
いのそんそうることせそう
ものむく女はそもし

嵯峨院
おほこる人もまもんもちこ
こぬの神よもこそのそ
こもろこそれよのこはて女つはる
うちの手深もこもの
このこころのこころ
神こちくこそぬさわいそ涙のるそもこる
梅つの女法よとふくそ
同上
道
大后
神こそやる夜の神のそこよ
そのるこころのこそ
女神
女法

あまよ
きつゝあまつゝもよもぬる秋ふ人
をゝこのゝ夜のゝ秋ふ
くるゝまゝゝ よゝまゝ
ゝゐもゝ思へゝめよゝ夜ゝ
大和すけゝちゝまゝ
のゝゝゝる
我ゝぬくもゝゝちゝ秋ゝ
女ゝちゝぬさまゝふゝ
ゝゝゝゝゝゝ

物語四中
百番哥合九十六番

ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
井ゝ文字ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

つまをあひくる女のもとにつかはしける

ちぐさ花ゆへおもひわくこゝろをもよほすころそ

いとゝやよ乃ゝ木佐

思ひけよおろかある涙のふるさとをまちほとりの女ほしまゝにみち侍るころ

つゝそくる　中納言

梅花宴

涙さへおちそふものを我妹子の袖よりあまる雨かとぞみる

祭使　源宰相

つゝぬる夜ふりて有れ涙川うき名ながれてもあとをみるかの

みたれ

菊宴

涙川ふるさとをのゝくさ人や我をそ人のたのまさるらむ

思ひいるをゝゝのゝ色そふかくなるよ

ゆふくれの涙のいろかふかゝらんをゝぬる涙のいろかふかゝらんをゝぬる涙のいろかふかゝらんをゝぬる

（ヤマトニ本）

（夕霧）

（ヤマトニ本）

（物語）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

我戀をいそぢぬまのみそぢ六十路もこえぬ

むもおその花つ緒

いそぢやぬまのこもり江の

女のもとよつのそ一つ

藤原君

うその中納言

ここのへにしらぬのいそのねそちかちる

中納言のむすめ春をまつまゝみる一とせ

えぢよつのそ一つ

うその中納言

ちをそその新中納言

教なくぬおとのこそまつみそぢ余りの秋そおくれる

人一しほこそまつもみぢ

をおくる

教なくぬ苔あてもひやそ

くむとこそせめ

ふるもまつ

内大臣

つむせその秋ふそよあてゝ杉やをんこそ

身もまもれるくとをのそみそよある

あいものぬ

かくまてにこそちくん古人のそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

物語二下
百番哥合三十二番

物語二上
うく物語
百番哥合三十二番

藤原君

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

一条院の女一のみこうせたまふとて
いまさらにおもひしらるる
書きまぜにあるべし
下もえの方をのこしけるを
おふむつ（本）　一条院の御ぐ
ちちうへのたまへるのよしをぬる綱
いもうとの中なの御すをおもひ
まろれゆゑもえみつとも
むさやをんなのうらぬ山ちたな
うゐと古たるか侍るふ

消ぬるこそ思ひのみちもこのひまをもよめるせとや
月のよの、まみく侍る女のもとにつかる
をそえのぬまの春もまだ
ちぐ〳〵ほのく月のうすふおぼろなるを
冥途小方をほのく浄らんしてよまを給る
ここもの
いのふく本のまの月のものふもこのとうちを人よもとん
おもひ残してまつこそ
冥途小方侍る

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ほのぼのとあけゆく月のもとにて
をとこのもとめくるまゝに
あるへき心にもあらねまゝ
こゝを
拾百哥合六十四番
女
あけぬとてかへるなからもまたきにも
きつねまつとつくよみせる
女
いとゝのひる女のあるへきを大ね
いとゝのひる女のあるへきをまつ

うらみてそ
いとゝおもひ夜山そをる
よるのうちあるへき
つゝそ言る
かゝれのそ帝の三のこと
かゝれゆゝしきをもこえをもおさ坂の関
からにしきしきのみる女のまゝも
しるさわるよさの里信濃
東路のさの舟もはめもうそてまゝ地を
女のもとよりかへりてをくる
ひもゝ信濃
そんまもる乃井納言

ちよふこそ物もぬぎ捨てゝもらひたれ
かつともせぬ女よはうそうする
あつろの宰相
いまみちのくぬのそでなる詠そへまそぬとも
つまもこ侍る女のもとふ
そくれのをうたを大弐
待ともこぬみ雪よもよいそぬとおもふつゝ
いそやの三条侍
我もぬるよもかくやつまをもそとんこのそらをやうま
おもふまそこそ我もこひけるころよこ侍る

有明別れを大弐
身をそこそ戀のりへをまつぬ里にあまを沈のまそよも
宮腰度女房いまこまみちの侍さわるころつの
きけける
女のもとにまかりてつとめてかへりてつかはしける
まそこそやそこぬ多のふくそつゝ
いなかろる我そよう女よ事もまをとろる
よもこそ
戀とむぬ命まろる抱ちこ我多をすてゝあいもこまし
中文のまこまみをを待そこそ
てこそまつこせるひろる

ここそ
つくしたなと名をこそ今ふのみとの神ろ
つまちふこのうちる女のもとにまふまふうそろの事あ
あちこ
深こそさ行よもきあめあろさへ人よりもろこ名をやろうん
ほのうえて侍る女のいとをもちよおほえろをもつ
この一ふる　水あさみの出中ね
今さこらのよやて行ぬへーあ
ろをそこぬこ侍のおうちをいちふうそろ今あまー
集従氏たいそのうるをまつ称まうてそろよろ

物語上
むのまゐる祝あを学事をおこなふ
うむちふのこころよやえ侍る
くまふ
同上
寒ーあそこもーぬこ月日へくいるよあろ我多としる
いろあるこころもふいさこおりくる女はほろ
引ろろく　あさくくやまの秀を
指子とのいろこをおさろんかくこぬをちも有う

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

いしく　よその男のこゝろの浦ふか
下ひものとけてもあふこゝちよう　やてぬるよの夢ばかり
きのひる女をうちとけぬさよふけてあてよめる
おもひかねそでやうらみんいつかわれ我ゆへとこそ
こゝやうをかくやうていふをよそのおこゝろ我ゆへとこそ
おれさよふけてあのさせをいつる女のもとにつゝ
さゝをひろるものゝこゝろの浦ふか
物語四申　おもひけん方をもそれとしらねどもそ物語
百番哥合十三番　しのぶるほどのなみだなるらん
ふるさとゝいふとゝ　ちとよめる左大臣

空のそれとも人やしるらん
うつゝ
きくひさき神の浦をかけてそよ拾遺集
きくひさき神の浦をかけてそよ人なるもの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

風葉和歌集巻第十二

戀二

かぐや姫のもとまかりけるみやづかへつかうまつりけるひとびとに
つかはしける　　僧正遍昭

そのこと乃末ごろのうちものの御うた
されてなほ　　さこそ

物語四下
やまがつの垣ほもたゆくむすぼほれ
なほこりずまの神もなげかし

祭使
拾遺戀五
思ひおきて神のもゝ物語
うつりのみかるるよりも

前齋院ほたるをみてよませ給ける
　　式部

さゝがにのふるまひしるきゆふべかな
あさぢがもとの蛍なれども

うつりかはりてのちに
うつろはぬ人のこゝろぞ
つれなくてまつ

朝臣
つれもなきむかしのこゝろ
つれなくて
うつろふ
ひとの
ことの葉

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

さの流女このころの清げ
みこのもとにこもりをれ
さこ
物語二上
もつよつまつよ今そこそぬ
百番哥合二番
をこのみつまつこ
こそ
やお百
たのめすそこも称ふやうおそ
拾百哥合三十七番
我このまものめこよの
あむこんとまのめよそ中
て二本

大ねむさくこそよるこ
ころよさおうをこつ
おこ
まこと
えくこまこの
かこそまこんこのさむ
おるこ
うこつかこ
女のもとよまこ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

おとこ
をとこ
をとこ
を

ものいふる女よ御ん
乃ことをおさおさ
さまる
物語二下
百歩哥合廿五番
おひいでて神ぬまこまさるさよ夜一よ
同上
ほのよ御らんくる女のひ
させたく
うことのこと
いとのいふる女よのひ

ふるとてよめる
うちのこと称おもてぬさよ夜
うの歌
さぬくよ泊るれおひいでて
きめく物くる女のいとせもう
うはとて
つとよりこの人をもさいのさおるし
いさう地のこともくる女
おきり川の春文
うちもみるたおさぬとよ

いそのむらさめやまのさくらばなあ
やまるるうへおさまりちるつくも
つきもこそ　六家秀清詠
若紫
こてもまつよのかみるそのうちもやそとせ我君もゝ
百番哥合一番
ちよの亀　すみのえの女池
同上
岩そゝかよくやはそんそひろまんあり
拾百哥合七二番
年とこそひろまんあり
仰るあまそよ　ゆるさぬ中の中納言
そのまゝのそ跡よやそまそ礼ふてまつる今こせい
きのもそるとそこのいてそるおうそきもとふぬ

鳥のまねそいひけるの称うむる(の二本)ことなり
うまそなのそ跡よまおまそ
まそれよそしひまうそちおうつちまるこそ
たそきりくる女よ　まつのまの系譜氏九
物語中
ひとよもいよもまそるそのうちをさめてぬもそよる
きのひまる女のもとそ我よもあそいつとく
ようめる　そこひらひら　多のうちち
いそうそ今よりねもそるんそのうちち
そのやうよそくよふくそうやう

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

ふもとのまつもさよふけ
(八本)
ゆくもおひしやくしもあらしのあめ(トレ一本)
清うへ　中
これやさかきかあらんうたむ
しのもとる女のもとまろれるあつさよある
はつ秋のもちものを改正
ぬるて鳥のそら秋やつるるん
年月たちうく侍るまろ
やうよいなうくそんとく侍るまろ

いそれ
ひろれたらふもあきふきるよう
いそのもさる侍よく鳥のそ
なれ
みるを
まてきく鳥の秋つきぬもまもむものは
いつもし侍るうるるのあつさるのあを
そくいそやそのの大おほうち名
つるまでるの秋なくいのてか
鳥のあとをやめさのるいうそ

こよ　　三舟の戒アつのこの女
うこおうら鳥の称こよ鳥ひむんあひはめるよそのそ鳥と
女のもこよりいそるあろうこよめる
こかそ
おこぬへおろぬるの吹をもつ
拾百哥合四十四番
あさ
ものひあへやこその鳥よおそこて称よたへはのる波
こう亀　　尚侍
吹のやこその鳥も人へをひこ
六条流寄こまこへの法

まし大つこるもちもちあつよ津んあこ
しくてこそあぬまて
もとけもこて　源氏
多のこをちそよおてのるよ
ものむる女のもとのちう
ひる
ひひよる人のそのまもも今よかへあそれのう
おまそこころのう
ひ女侍
ちうこそ安る月のすまこもの也、

帚木

ものいふ沖らんせうねの
きをとる　　雪の
ふるまで雪よ有明の月すまむ
拾百哥合九十二番　　よしいまは
よしと待るく　　くとも
なこそのせき有明の月をまつとて
女院大ねんつくしにおはしますをしのびてまいりて
おほしらんーあまた有明のなる乃沈淳
いのちせんかぎりこれをまのこと(一本)
ものいふ女よあふ坂の
ものいふのやちの一条沈淳
ものいはぬ女よつらきあの門を
よしいまは
よしと待るく　　くとも
なこそのせき有明の月をまつとて
女院大ねんつくしにおはしますをしのびてまいりて
おほしらんーあまた有明のなる乃沈淳
いのちせんかぎりこれをまのこと(一本)

沖の一番

つまこもるく有明のかたよめ心
ものいはぬこころよく有明の月
月をまつをもよみくとめる

ゆくくぬる大ね
沖もよ有明の月ものやく山のはのうちそ
女のもとよりつとをくるあのつく
(一本)
ねのたのおほいまうちへ
成の門よりおつる神のもよ
あふ坂おほされる女とあの月をいそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

負
百番哥合十一番

[illegible]

物語一

[illegible]

[illegible]

同上
拾百哥合廿二番

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

浮舟

同上
拾百哥合七十五番

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

あふさかの関水　うきをかさねて
あふせよも猶まねハ涙川いつもすゝき神のうき
我こゝろをつくるあつさ秋よハ乃
うすそおほるといひなもて
山あさみの大納言のめて
かさぬこそとも称いのこと夜やて涼よ杉や呆ん
しのむら女ものやまよ二年尼
こゝやをむすむやちんて拙のきれてふるとのきしき
一条の女三のこゝろかよいそめてのまよ

かせよつまあきの大納言
つるとてうこもおす姫をそそもほしる抱と
ものひるをよりそてまふつのそる
うき
人いさうつるやさめぬらんまくはぬよの多のちち
浦の一　皇后宮
身とふるこのよのおとやまにこゝたれ多のよい路
女三のこゝのもとよものむくまもよるせる一ちる
あまよ　さこそ
うく称を中多忘やさめてお守る人もあとや

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

物語上

さめぬよの夢のまくらをつゝむ女ごろも
　まつ夏の夜の夢氏たゆ
春夏の空especially女神いまそかる
ふいさゝらひきあひくまのゝ大将
　称さゝ
雪のまの夢ふかくこゝろ乱れさいのもるゝちのハすする
女のもとりかつもくつのもゝ言る
　こゝそゝ
いそやかいつのふるゝをゝくゝるゝ前言ハ
拾百哥合四十五番　と一本於つ於
　ふよの名おの社のくくハぬるゝこと

やをとの

あやしくもゝさの狭のぬるゝ
宇治のふるのさゝみよのふけ
ハ八るる　角ふ
世のゝよゝいやまし雪深き
拾百哥合四十二番　と於　仁門上
七ん帝女一のこゝろのよひ
八るる　あれ
ゝゝけむそのゝゝそのゝ
ゝもゝるゝのんもかゝそ
うの雨一

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

女のもとよりかくなむ

おもひつる野辺のさわらもさ沢にぬふ社さへぬるふ

ふるさとにある女をおもひやりてかきつけてやる

そこよりよめる　おのまさふさ大ね

あるくもあるよるるふしもやらんのかくれ社もうやぬるらん

その心ろ女のもとよりかへしてやるつつ

ふる　をそのぬるの春えんま

いつのまにかおもひ初めけんとそうたがひ

うた

拾遺大納言女

我をおもふとふみにかきてよこせたるを消つとて

返事にもあらぬ事ばかりのおとこと

ふみにもあらぬ事をせよかしてやるとて

おほろ月夜の尚侍

花宴
百番哥合三番

うき身をばよそに消ふとおもへどもなほ露けきは袖

右京まさみちの三位は

社ぬるやとくよりぬるまのかりのねを

中よりの物申納言

よめる　いのちの用大臣

たくひなきこひをするがのうみにこそ身をなしてふまじきものなれ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

女のもとよりかくなん

有明の

神のうち我をまつらんやまとうた

あさましいかなよしなきことをいふ

まものしいかなよしなきことをいふ

あまたにおもひわたるとしのつき

答る

おもひこそ

なくさめつつさても幸なくこの夕暮を打そのむうる

一条院内大臣をよひよせつゝかたらひおきてよりくんたつよひ

暁をおくりてかへるみちすがら

待ながらて

いそぐらん

かくらもこまるのかくるをおくられやらみ乃夕暮の空

まつまつまちあひくる女

こゝろまよはさけるお幸に

けふもれあらもまをおいそんはのまをふたゝひぬくふ

拾百番合三十六番

いつくとなくる女をとゝめおくかくふ

まつまつおくるつゝまとうたち

なまて

おなし幸に

一のつふみをよく品まや夜もけんこゝろみ

ものひくあもしく待る女のもとへ文まつて

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

風葉和歌集巻第十三

戀三

君もあさからぬ我ものこふるやまし柿本

如のくまそせる

よもそ

いつもせん江の世まてと契てもおやまやまぬるを

夜壺の女御むすめ等の命をも

うむんをもいなこひおほされぬをは落をとる

国譲中

うつ

法もよあるとてよもをおれのうへ

志のひとのひるとこと女のまろと

もよそひまるうつ

涼舟
拾百哥合四十番

そこそよの我をのめてもおやをうへぬ命あらんと

同上

かな

ひとをおけさらまし

こころそおるをとこのまもよあくとる

ひよちるとも

あくやなくひく

かくし

うこあこ消ぬをいり来をもちるんそのちぬと

世のやうそこあるところまをと

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ことかゝるとゝろのもゝくおもそまつゆく末
ちゝろくちゝせ松ゝるふ
をゝゝのぬま乃当信
めのまゝよゝらひもゝたのあおりもいまゝてゝゝゝめあゝも
おゐゝころまつのゝきゝゝゝ

侍ども出て　うつのやまゆるの雪侍
深のかる袖ぬくる程もつゆはらひ
をそのさるゐ　ちそそも侍をそて
よみ人しらず
つれなくて袖をぬらす程もなし
二品門親王
若菜上
めもはるる雪にかをる梅をりまがふ
侍る　むめ
うちの中文のをそよまれをるふのをる大ね
乃うつほの事　ちそそのこと

十三ノ三

いそくをさいうをふともいく侍る
つゆはらひあて　ほそ
宿木
まろこんをもおもる社のうつほ
拾百哥合四十九番
歩をそくをさしくもちそそのぬまの内大臣
をそそ
うちのそなをあるふんそもれぬよの衣と
おそくまもかのまんを(二本)ちけるをもふ
蔵人中
よのそもおろのともをそそ(久々物語)ぬころもうしはいつる
うの雪　さうの侍の女三のこと

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

同上

うゝこゝろんほゝゝもゝゝそゝゝかゝゝ衣袖ぬゝゝるゝゝほゝゝそゝゝくゝゝる
いつゝゝれゝゝこゝゝたゝゝよゝゝもゝゝ女流もゝゝゝ

まへたる男まうでくるほどのものの
おとせもまうでくる沓のおと
ここちよ
つまどなさの令ときゝよ消やすらん
いとつゝましうわらはなる女のもとに
うやうやしくいとまめやかに
法せちにとそやいとかしこまりて
つれなくのみこゝろえまどはしとおもふ令と
らせまほしうつるよ沓とゝめてこゝろ
の世ともうきよおぼしこゝろあさらせたまふ

物語三下 ゝゝよ百
百歩哥合四十四番

令さくつゝませひおとおもふらんつゝまし
のうのまゝせをまのめはしたなくて
まうでくる男つゝまやかなるを大臣
ふつゝませのいとうるものゝこゝろの沓ゝ
ゝふともおとやこゝ行とゝひとりごちて
まいりぬ ちよ
さわともとおもふのあさめふゝくし消をぬ令なりけり
宰相中将大弐もむすめあまたおはするよし

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

あてつきまいまめんともも
もおきなもて　あもて
物語一下
あまのとぢやすらひまでとゆふ
百番哥合四十八番
霧たいまつ三位中将
ものやくるとつまこきこと
ふかのくるまのおもくまつ
拾百哥合五十九番
みこみこもくるときかな
こころさせるひけはてのそ

おうせをものひきる
うまでもの称のきたいのま
いつこゆともいそおうくよとき
をこのこ女むのうんこ
ところまるふおくろ
ぬるとういつこのものそよともま
よみくしたいまみ
堤中納言
いつこ物語
おところはせと人ともくもの
おところまこまてきの
ままやこ人乃

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

風雲余集卷之弁十四

戀四

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

うちよをもんとしはるふひきやくまの
みそなくふ神つのひまもこそくるふ
きりくる　人まろ（二本　や　四上）
ろつほまるくのくさやそもちこん
内たにんつそりまるさまふこそ侍るころよま
せ給る　おやこの中の中
かそりし人のつこもつれぬよいのふもうて社のぬるむ
をこそ我はくそのりやそくさひ社もぬま
まろまこそ　ちろまよぬる内大臣少方
我ふくんのうちをもつぬいのふ社のぬるむ

夕雲
百番哥合九三番

夕霧左大臣おちそのあはれ
致仕のおとゝのむすめ乃もとふつのそ侍ける

夜内侍侍佐

物語百

夕雲
百番哥合九三番

我ふくる夕もまつれまつ世のうきをたえ
よつぬ涙のおつるさまよ

人のおやのこゝろ

物語二

まろこそうきをたえ
うくまてまつぬ涙
侍るまいのあやこんのそく

小物語

こゆるぎとみとのおとさまをせんとて

ここもかの伝徽女御

志賀までまのうきまくれくまよつうきもあるよう

さてもとめぬさまもろくるをとくこのなくてもあて

くさいよりもおろくよどくれぬさくこくいむ体

つとくは　あくいまくやの大武女

あてよりまさこん花のつくさよもふ又まをとへやるい

まいくく　女すくく

つくをもうをもまてる君もふいてとをとし

一条院内大臣おろよもあくくれをくくく

乃ちさまくくくくをもうくくまくくとくくまく

いまくちつ

思ぬと人をうとくおみうさもふ夜もかくちあくまて

一のをくるをくこのつうをふちゃるをくくをいひ

くはをくるふさくまくハえくこゆまくあのち

人をうくんちをとやまうとくまて

こうくふさけるの君体

うくふ又つくさ(さゝ)をくくもとやさのくいくおもん

いつあるとくるをうとよう門の海又よてるくいみつひ

くる

さこうもの

物語三中
百番哥合九三番

つるのゆ

いのちつゝ多のおこりのさゝやゝて

女のゆゝしくもかゝぬ扶ちゝん

おさゝゝ

百首合六十首

四ぬゝの井ゝもやゝてまゝふ川そゝるゝせまに

そるゝもゝるかゝゝ侍ゝるゝちゝ

ゝる女のつゝさゝゝふゝゝ侍ゝゝ

ゝる

恋ゝいゝゝさゝめのぬゝゝゝもいゝゝゝつゝゝ

抱ゝいゝるゝゝゝふゝゝ侍ゝる

やゝのうつ

もゝゝゝまゝゝのゝおすゝもゝゝゝやゝの

女を来ゝ一まゝいゝのむゝ沸らんゝのちよゝのせ

ゝゝいゝる

いのそ又ゝおゝせん青のまふゝもあゝゝゝゝ

ゝ川のふ沸らむせゝゝゝゝる女の沸ゝよゝゝ

来てまゝゝゝ侍ゝゝ

ゝゝぬゝのゝかゝの沸ゝ

ゝゝゝのゝかゝゝふゝゝかゝゝあゝせんゝゝゝ

おやのまゝゝゝゝいゝまゝいゝゝゝる女のもゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ものもくはでのそミ居るの
人ゝそれるのたゝ
ミ〻をいつゝふ〻かゝるゝまゝ
まいらせ ふるものゝ中納ゝ
あゝれてゝくまゝふゝやゝ
いとのひゝまひく侍る女ゝつゝゝる
あひすゝ
思ひこやあるふるさふゝゝ
うゑ一 源大納ゝ三ゝ
ほのめゝ侍ゝふちゝゝゝゝ

かゝるほのふ清らもせゝ
ゝのゝうゝあるゝゝゝる
みゝゝる
ほの是ゝちゝ思ひゝたのまれゝ給ゝ
いとせちゝ思ひゝる女ゝまゝ
ゆゝゝゝひあるゝゝをハ
ちふゝゝゝゝゝる
ゝゝのゝ心ふせもゝまゝの侍
清ゝゝあるゝゝ給ゝゝ
なゝゝゝをは いゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

ことわりやとうちうめきて侍の君ともさぬ
つれなくてこと（ナシ本）そもなる女のいのちのほをたのめく
もこむことをおぼつかなくおぼしめしよるせ給る
ほどの心ことの沖の
ほとゝぎすをつひよふことをきゝ
中納言ともちかうかくひかる女を
ものよりおもひくはるをおやむきまてくもて
はゝくはるとゝ思ふこともおもひ
野よかくれとゝちきこゝろをやりて侍り
くまもて
ものゝ形の大ぶ女

歌をとんむとつよろすれ袴とい
ものもとの中納言ともつゝ
設の詩よろくく おろもろ

くやとふとゝ（ママ）物語ホ

侍ろもあひ
くるころおもすこあるこ
めもひぬ
おれとふうち
ちこゝ我ん
よ移んろ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

のちおとゝもかゝをきゝてまゐりぬ

祢物語

うつゝの

戚元中

むすひおきつゝのたちちかへつゝ祢ぬ

みのおほいまうちきみほとつゝせつゝるふゝ

をは冷泉院まうし祢ぬ

すゝてつゝふゝしつゝせんとおのゝをこゝま

ゝゝ祢のさすけまうとゝもふの祢ぬ

せゝ侍ゝる時ゝ

ゝゝる

かゝるゝゝ宮方

ちゝひゝゝおゝひゝゝゝ

をそそ
あるさまをかき中かいるまを六源をうの於ぬまのまろえまし
たまをそそみるもいそのまくのそそくくのうち
ふ　かいしーのみ
人いう源をう統のそち々我八令も於ぬこと多そ
をそこのままくそそよそうよふんある
そそいえふ　むそうそ
いうみせんそそんもしし者つらくふとも於う
侍つおもほうすれるやとおほえのいくる
ころ
社のまあーとそふるの西流の母后

いつのまふ年つそいつすれそそうん
六六后の一条の家よまをそ
うそうふをそそそふくよちそれすませ侍るところ
くるに半けふそちそそふうきつて侍る
うつのは
藏冗下
たぬんをまちつつる我ふくく一本物語
ものおもほくるこ源中の橋六六のいもふ
しいまそく　たまむうへのそうの清宗
見へむよおつる源よるを升のようふもかるをまちや
当信んまもあくいうちよふあとはるくふをのこ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さやふみそまつつとこ言しれて
こころそよ
ふるさと道のよろづる山人のゆ
拾百哥合三十八番
山さとよくとしつとおとろく
さもつろ拾ふそのいのものふ
るとろのふつとくこつを作とく
浮舟
百番哥合四十二番
いつよう名をそすてんともつくやの
いとつまもちくこそそてものつる女のもとやまひ
ふさくへなるふけをいよものを拾る

風ふつまこおろのよう哥虎清
おろよのろふそまふ消ちまる命のもさ出そ
ろそよろふいさ
女のもふつのそ一言る
むちぬいまの暮方
きそぬくろれもの淀ゆふろる命とうる
こ法なくひろそあひのろもふろる
女よまものよつろひろるまろつのつ一
おやそのまの井乃内大臣
さもともふうよかそ命もそいかろうろ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

物語古本四下
百番哥合六十八番

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

拾百哥合七十七番

藤原君

拾百哥合九十九番

（扨）

（とうろうまるそきお）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

物語一下
百廿番　哥合三十四番

うちをこそ今もたのもとをやせの
あまもかくこそ侘るなるらめ

あまをとめ
あまのかるもにやどるつきをみよ
おのがうきよをなげくわれかは

同上
哥合九十一番

つまこせのそこのこころつまふかき（物語百）
あまをしねとやいふべかるらん

同上
哥合九十二番

あまをれもとひろふ女のあまをとめ
名をおもふよりとやなげくらん

うちいでのそこすみよくてよみぬる
おもひをみをもくだくあまかな

拾百哥合五十二番　冬一本

おもひ納をもようのつつみかな
こひはうきものそよ一よともまてる

このひとをうちくちもまのこと
つのれのすみやくかき
よろくこころせ侍るる

この事を大臣の女

うつろゆるこころ方の侍ぬと
事くよおそまくるも
おもよそのおろふ
ひろれくかそちのふのそ
なるふいのそろおもいろ

さろものろの清家

百番哥合五十番

ろろふ称の侍よゆんりろ
おすろるのものろろ
すろふるろあとい
ろ称くおそろをまて
ろ称ふるまおくろ侍ふろ

同上
同哥合九十番

深のなろまおくろ称ふろ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

風葉和歌集巻第十五

戀五

菊宴

[illegible]

[illegible]

宣撰後女沸

[illegible]

女の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物語中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花宴

百番哥合二番

[illegible]

春のよのふさほの梨なる

女のもとにつかはしける

[illegible]

こふのうれの宇相中将

うつゝ

春のよのゆめとそ人のいふめるは
まやうさん侍る女のこゝろつくしてのちものまう
ての帰さまみるそまあらく侍るふものつゝ
しくる

うつゝ

うきやこれやうつゝとたとるまてあるものゆめ
右のおほいまうちきみ
かおもとそ生よりかつのまのみやこいて

後蔭上

忘れ草

うつゝの内侍督

ほとゝきす鳴つる声は
一ともとも思いもよらぬ袂かな
うき末の秋の木枯風はやみ
残りなく侍るらんさそみちくさん

若菜上

くもつまとおそくいてし二品内親王家小侍従
女ともをつのふこうちせて楓よりく

きこえさせ給ふ

あふさかの
くさ〴〵にのすきくてくる山さくらかな

清少納言

春をへてさくとはなしに山さくらいつの
女のもとふつかそこらありて

うつろひの中納言殿の

梅花笠

山ものさるものまもの花の笠ふうき袍子まもみぢ
山ものさるものまもの花の笠ふうき袍子まもみぢ
くちなしもさそめらむ春ぞその袍せ

物語一上
百番哥合十六番

いろふせんいろぬるもふれいろのかぎりの清少納言

さくらるものかぎりの清少納言

はなのえだをおもまきものこゝろ

おもふ人まつとしふれはかみのみぬるしの清少納言

四季のものこゝろ

ほとゝぎすのかみの清少納言

くもゐなくこゑもろともにあかしてはうらめしきかな

清少納言

あふさかの
こゑのさふかくもたえいせるいつこのあけぼの

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

六条院まつり給らんとてくる御車ふせたる

源典侍

葵

くやしくもかざしけるかな名のみたつ人をのみ子ふ
みのころもあふひてふことなるを
神らむせさを事まひくる
そのおもいのこなるの御哥
その名をかくも子まじふる
しのむく神のゆるさぬ
つきほくひのるさ
やいの先帝の御哥

十五之四

物語一上へ百
百番哥合六番

丹鳥叢書

時鳥をそ
姓
よつのそくる橋の女
あさつゆの檜扇納る
まもかいやるこんいこ
あて
つもくれく音ふるむ法
五月ある女のもとにつかはす
さ
ものうきもの御
やうやうもん百

蓬生

百番哥合七十九番

女御

女房

（一本）

夜のまに雲のくちふゆさまよひ有明のかけを惑ふも

清輔朝臣

有明のつれなくみえし別より暁ばかり憂きものはなし

菊宴

夏ふかみおとなしやまのほとゝぎすおもほえぬまに鳴過ぬらん

こゝろさうの歩の御句

名をきるむしの夜むしもいとゞ我をわすれやするたゞものとのみせるうつせみのあま

空蝉

うつせみのもぬけのからにあらねどもたゞ人しれぬ袖ぞくちぬる

百番哥合十九番

物語一下

こゝろみにかくてもあるかうつせみのからをばえこそ思ひすてねと

同哥合十九番

女のもとふうつせみの名をかりてつらくもあるかうつゝなきまの

祭使

なつのよの夢のまもつらしのぶればうつゝをもむすぶ草枕かな

ほとゝぎすやさきの峯の雲ふかみ

夜もすがらやまぬ雨かな秋の風

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

あるまことをとふにその女のもとにふそ
の月のそむこさいもこのまふそ有る
と人のいおせまふ
まつかる　うつ
祭使
人こそおこの月をまのもれ　（やうて一本）
秋のそつく袋とのうちあまる
いそ
ちふら神のうれも秋ふ行多すむそのまこほそ
ふまあるまふ女まそまふ
まも秋ふもにそまふ風のおふ

いふそふくよふ
おふ
にのれもふをぬる秋ふれ行ふ風のおふ
申そせるくいそまふ
ふそまふる
ふそ文秋まんそ原の神ふの侍ふ
まふの女神まふ
七月七日祭をふる
うつのふの侍ふ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

参議
つまこもるとしへをまつにまさるらん
うちとくくいかにらむせこ
をそる
ふさもまさ寺のそ稚もおほしと
ものをもようよ寺らもむもと
さまるふるふたゝ
のそきせ旅々
名負
ほのふものさの萩をむすめ
百番哥合十五番
思むすめそ
つまこをのふさるをの
やさ祝なゝ
有明
あさ人のくの秋のみそよも我名
さむしもゝるを
く
下萩のそ稚
さのふ寺ふ
秋のタをゆ
しいねの倭

ささ秋の風の雲をさそふ秋風の
みさごのまこもれなる
くのちんちうまれよをあそびてまつて
法そそくる　ささ
男のささ心ぜも出ふふその秋風の雲ささあて
秋の雲ささるあつ
とこもとのことをおほ　ささ
おもてのそ夜の宇お申ね
物語三下
おふふささちゆふささ秋のつ
の物市　門上
女乃もふつそはけ
いそ
花ささまそ風のほのふ
たた花のささふささふ
むささおふまささ
まささつそ

そのちいもとのもとふ
ささ
一ふふ品ささふささの清ふ
女乃もふつそはけ
いそ
花ささまそ風のほのふ
たた花のささふささふ
むささおふまささ
まささつそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

高ふかといむしのこゑをとひおとろきて
いそきもとめよ女よ秋のもろこしうつる
うつろふ秋の中納言雅明
まち待つのとこゑをふもあくさめんのつをもふ風ふかん
こゑる
名もむしくさの秋風よあはれとたのまさる侍
忠包
まつ人の秋とこれをまちいでよ
さきちさの大尽のしれ秋
そのまち待つをこゑよ
うつろふ
うつろふ秋の女清

おもてころさまくうつろふ
ふる返るもろこしくさ秋をさ八
同上
志ら露よりかうの秋をさ八むしくさ
みちとむしこゑせ待つ秋のさ、のや
ふる
秋のつをまふおもてあるとそ人もふし
秋のころもちるる女のもとふまるとそ
うつろふ
清よ秋のまさの声る
ちるとも秋の人の
一本物語

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

なるとの神納言

むれのおとゝねはねの夜をのこる

大納言女

きりぎりすのうちのせまるむしの音も

かすめもまさる秋の夕風

けふ

ちゝの命をかさん里ある

海士の子のまちくたす小方

おほいまうち君

たゝの杜のおとゝの風のおとをまさるとふらん

いとゝの袂もうら侘る女のまろうふつゝそくる

もらさやがもむ杜の風のふかぬ夜も

ほとゝぎす名のみむ杜の風のふかぬ夜も

ほとゝぎす名のみむ杜の風のふかぬ夜も

ほとゝぎす名のみ

こそこのよそふもやうんともすれ忘れ行くこゑ山の風と
秋のうつるまもなく侘る女よつのそーけ
いくよ
捨百哥合八十七番
寝ざめ
憩ふるおくの窓の月影
二のまくら
寝ざめや
寝ざめ
寝ざめ
寝ざめ

賢木
百番哥合三十九番

ほそのそれいつもそのさまをこそよふしぬ秋のそうう

同上

きりこの秋のおもしろきふるさ

ーのひまもるおもうつくよみ侍る

そのの思ひのかたね

天彩のつくさのれいあれぬまとねおそうし秋のそのる

女のもとまうつくるこころふこころのふもとを

こそそ来ちそうふれて

川霧いつくさのうたくつまたくつ

いとのおそる女のもとよりつかはしたる

雲のまたいせのあのへそそ

思ふまそつそそふこそふくまあを

山のもそろいおりろそて

そんすむる女房

もそそのをいものふ涙のこのつそ神そたそまさらけさ

ちおそまそそそみ系のやふぬまそそそ

く女よつのそそふ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

嘯戎院
我戀ハ秋のやまとよりもつら神なびもみちを
若菜上
まいりこし むかしのひとへ
拾百番合七十三番
こととこうる心のとちきりそ
いそきこえたるやうふ侍るころもし
らふのさはりあるおすてうる
物語三下
百番哥合三十七番
こその夢と打やすめのまんもりさ共
あひみるとこそふ侍ら〻このそ〻し小
いとゝちひしきまちみやこそきものもふ秋

十五之十四

物語三上
百番哥合六十六番
秋のもちさもこそとめたのめ神奈月小
よゝかの院へ通寐にのむすめ神奈月小
まるる夜ゝ〻こそ侍もまるせる清々
しきこそせ侍もそ

風雅

物語
うつせみのこの秋のをふしくれ
たちまるのたもとの露のまをかなしく侍るそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

（忠七）我宿よりとく〳〵帰るべしと母の方
女よりまゝせもいそぎまゐりとらせたまふ
我ことをこのよし風のたよりに
告いとゞ
天よりて歳よりめんあさ
そもゝ敢ていたすことのあるをもすしくれ
えよりくおこせそ
秋のよるのとまりの徽及左を

ほかへそゝ移すべしとのたまふ
神言のまゝに女よりとくかへる
あさ
いつのまにかきえ神もさのみうつ
おもひかるゝ
そんするおんな
かゝるをの時自ら
神言もち女のもとをとへ
うつるさまをつゝ
言る

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

拾百哥合四千番

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

浮舟
百番哥合三十二番

117
105
2

源氏のそゝろの考

槙柱
拾百哥合四十番

ふるそゝろ之於言ごとの紐

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2